

兵庫県立健康科学研究所

健科研リポート

Report of the Hyogo Prefectural Institute of Public Health Science

Vol. 32

2026.8

特集 夏から秋にかけての花粉症の
主な原因植物

TOPICS 麻しん（はしか）

花粉症と言えば、スギ、ヒノキに代表される春のイメージがありますが、その他の季節にもさまざまな種類の花粉が飛散しており、花粉症の原因となっています。アレルギー疾患対策の一環として行っている県内の花粉飛散状況調査では、春以外の季節で代表的な原因植物のキク科ヨモギ属及びイネ科などが、いずれの観測点でも認められました。

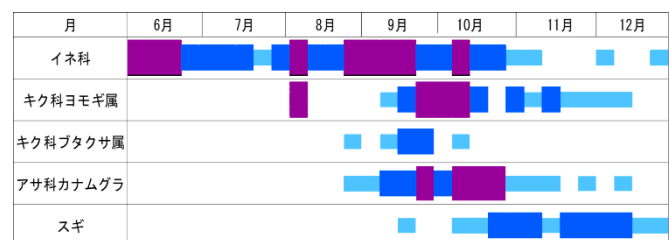
そこで今回、夏から秋にかけての花粉症の主な原因となる植物を簡単にご紹介します。

主な原因植物

キク科ヨモギ属、キク科ブタクサ属、イネ科、アサ科カナムグラが花粉症の代表的な原因植物です。いずれも樹木ではなく草で風媒花です。草は樹木と異なり地表付近で生育するため、花粉の飛散距離はほとんどの花粉で数十 m 程度とされていますが、花粉は非常に軽く浮きやすいため、例えばブタクサでは上空 3,000 m 付近で観察されたこともあり、時には数百 km 先まで運ばれます。また、風媒花であるため大量の花粉が生産され、ブタクサでは 1 株で 10 億個の花粉が生産されることがあります。

(1) キク科ヨモギ属

ヨモギ属は日本在来の植物で 30 種程



凡例：■ 0.1～1.0 個/cm/週 ■ 1.1～5.0 個/cm/週 ■ 5.1～ 個/cm/週

図 1 2025 年夏から秋にかけての主な原因植物の飛散状況（加古川）

度あります。繁殖力が強く、受粉以外に地下茎を伸ばしても増えるハイブリッドな植物です。そのため、畑地、山野の他、道ばた、土手、空き地など身近な場所に広く分布します。



全体 頭花 花粉(約 22 μ m~30 μ m)
図 2 ヨモギ(花粉はゲンチアナバイオレット染色の顕微鏡写真)

ヨモギと言えば、葉を用いた春のヨモギ餅などを思い出される方もいらっしゃるかもしれません。ヨモギ属の草丈は 0.3m~1.5m で、開花時期は 8 月ごろから 11 月ごろ(図 1)です。頭花(図 2)が茎の上部で大きな円錐形に連なります。頭花とは小さい花が複数集まったもので、ヨモギの場合 15~20 個程度がまとまり一つの花に見えます。頭花は直径 3mm~4mm 程度と小さく下向きに多数つきますが、色合い的にはあまり目立ちません。花粉は淡黄色で大きさは約 22 μ m~30 μ m です。

(2) キク科ブタクサ属

国内のブタクサ属は、いずれも北アメリカ原産の帰化植物です。北アメリカでは、花粉症の代表的な原因植物でアメリカだけで 2,300 万人以上の住民が症状を呈するとされています。国内では明治初期に持ち込まれ、繁殖力が強いため全国各地に広がり、河川敷、空き地などに繁茂することもあります。



全体 頭花 花粉(約 18 μ m~20 μ m)
図 3 ブタクサ(花粉はゲンチアナバイオレット染色の顕微鏡写真)

草丈はブタクサが 0.3m~1m 程度、オオブタクサが 3m となることがあります。開花時期は 8 月下旬から 10 月ごろ(図 1)で、花(図 3)は大きさ 3mm~4mm 程の茎に穂状で下向きに複数連なり、花粉を持つ雄頭花と言われる部分と雌しべだけの雌頭花が一つの株に別々に咲きます。花粉は淡黄色で大きさは約 18 μ m~20 μ m とスギ花粉の半分程度です。そのため、気管支まで入り込みやすく、喘息の方は症状悪化の原因となることがあります。

(3) アサ科カナムグラ

カナムグラは、つる性の 1 年草の植物で日本全土に分布します。非常に成長が早く繁殖力が強いため、8 月下旬ごろに少し見かける程度となった場所でも、1~2 週間後にはその付近の木々、ガードレール、フェンスなどに巻き付き、一面カナムグラで覆われます。

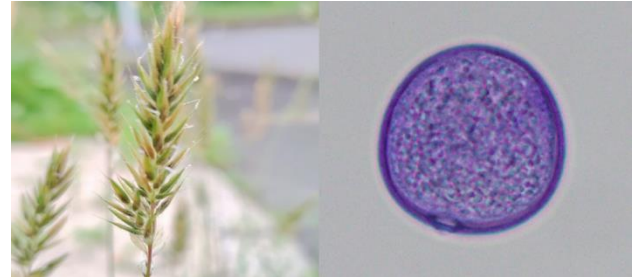


全体 葉 雄花 花粉(約 22 μ m~26 μ m)
図 4 カナムグラ(花粉はゲンチアナバイオレット染色の顕微鏡写真)

つる性の植物は数多くありますが、カナムグラの特徴としては、葉(図4)が5cm~12cmの掌のような形状で5裂から7裂となります。葉の根元や茎には下向きのトゲがあり、注意しないと手を切るほどの鋭さです。このトゲで木々などに絡みつきます。開花時期は8月下旬から11月(図1)で、雄花は雌花とは別の株に咲き、花の形状も異なります。雄花は淡緑色で5mm~10mmと小さく、上向きに伸びた茎からさらに複数に枝分かれした茎にまばらに咲きます。一つの雄花に大きな雄しべが5つ垂れ下がっているのも特徴です。花粉は、ごく淡いアイボリー色で大きさは約22 μ m~26 μ mです。

(4) イネ科

イネ科には世界で10,000種前後、国内では約500種と非常に多くの種類があります。食用のイネ、ムギ、トウモロコシ、景観用のシバあるいはススキなどなじみ深い種類も属しています。牧草地の広がるヨーロッパ、北アメリカでは、花粉症の主要な原因の一つとなっています。開花時期は種類により様々で、ほぼ一年間、何らかの種類の花粉飛散



花(ハルガヤ) 花粉(約20 μ m~60 μ m)
図5 イネ科(花粉はゲンチアナバイオレット染色の顕微鏡写真)

が確認されています(図1)。このうち特に注意が必要な種類は、ハルガヤ、ネズミムギ、カモガヤ、オオアワガエリなどの牧草です。国内では、牧草として栽培されるほか緑化にも用いられており、繁殖力が強いため、今では各地で野生化し、河川敷、空き地、道ばたなど身近な場所で繁茂しています。小花(図5)の集団は小穂と呼ばれ、この小穂の形、大きさ、密生度合いは種類により様々です。花の咲き方も穂状であったり円錐状であったり様々で確認するには図鑑が欠かせません。確認できた花粉では、ごく淡いアイボリー色で大きさは約20 μ m~60 μ mと種類により異なります。

その他の原因植物

スギは春が開花期で花粉を大量飛散しますが、秋にもわずかながら飛散し(図1)、秋の高温が原因の1つとも言われています。県内いずれの観測点でも毎年観測されており、スギ花粉症の方で、秋にも症状の出る方はスギ花粉の秋飛散が原因かもしれません。

花粉症対策

夏から秋にかけての花粉症対策は、春季のスギ、ヒノキへの対策とほとんど変わりません。花粉濃度が高くなる近距離には近づかないことはもちろんですが、花粉情報を活用していただき、開花時期には対策を行ってください。現在、宝塚、龍野、豊岡、洲本及び当研究所(加古川)の県内5観測点のブタクサ及びヨモギを中心とした花粉飛散状況をホームページで公開しています。

夏から秋にかけての花粉症の主な原因植物を簡単にご紹介しましたが、飛散花粉、花粉症などに関する、さらに詳しい知見や関連情報につきましては、環境省の以下のサイトなどをご参照ください。

- ・「花粉情報」(兵庫県) <https://web.pref.hyogo.lg.jp/iphs01/kenkokagaku/pollen.html>
- ・「花粉情報サイト」(環境省) <https://www.env.go.jp/chemi/anzen/kafun/>



「花粉情報」兵庫県

(健康科学部 後藤操)

TOPICS 麻しん（はしか）

麻しんは、麻しんウイルスが引き起こす急性の全身感染症で、「はしか」とも呼ばれています。日本は、2015 年に世界保健機構（WHO）から麻しんの排除状態にあると認定を受けましたが、それ以降も海外からの輸入症例やそれを発端とした感染事例は発生しており、麻しんウイルスが国内に持ち込まれるリスクは依然として存在しています。

麻しんは感染症法で 5 類感染症の全数把握対象疾患に定められており、診断した医師は最寄りの保健所（健康福祉事務所）に届け出ることが義務付けられています。国内の麻しんの患者報告数は新型コロナウイルス感染症流行期（2020 年～2022 年）に激減しましたが、2025 年に急増し、2026 年は過去 10 年で最も報告数の多かった 2019 年の同時期に匹敵する患者数が報告されています¹⁾（図 1）。兵庫県でも、2023 年以降、患者報告数は年々増加していましたが、今年の 6 月 28 日（第 26 週）までの報告数は 2 件で感染拡大や集団発生は確認されていません（図 2）。

当研究所では、麻しん疑い例について遺伝子検査を実施しています。2017 年～2026 年 6 月末までに検査した 248 人のうち陽性は 14 人（ワクチン株除く）で、遺伝子型は B3 型 6 人、D8 型 8 人でした（神戸市、姫路市及び尼崎市を除く）。麻しんは 24 の遺伝子型があり、そのうちの B3 型と D8 型は現在世界的に流行している遺伝子型です。

麻しんの症状は、発熱、咳、鼻水や結膜充血等で、解熱傾向になったのち再び発熱し発疹が出現します。麻しんは空気感染し感染力が極めて強く、予防にはワクチンが有効です。

1 歳時と就学前の子どもを対象に、定期接種として MR（麻しん・風しん）ワクチンを用いた 2 回接種が行われています。麻しんを疑う症状がある場合は、事前に医療機関へ連絡したうえで受診してください。

1) 麻しん累積報告数の推移 2019～2026 年（第 1～26 週）（国立健康危機管理研究機構ホームページ）

<https://id-info.jihs.go.jp/surveillance/idwr/diseases/measles/graph/2026/meas26-26.pdf>

（感染症部 川嶋 愛理英）

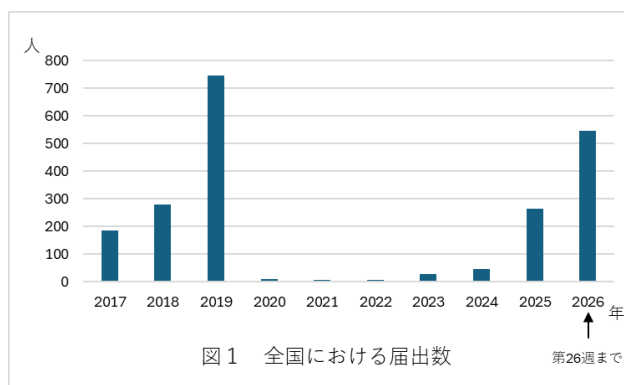


図 1 全国における届出数

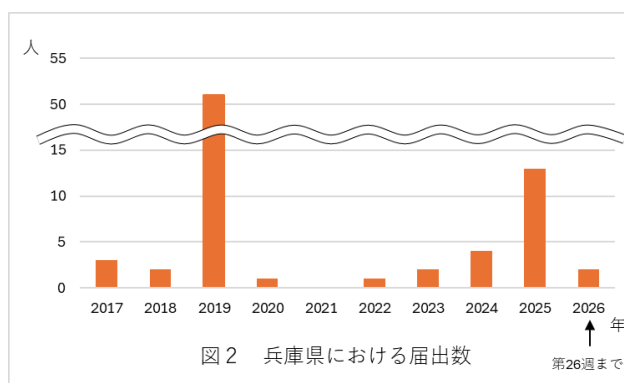


図 2 兵庫県における届出数

編集・発行

兵庫県立健康科学研究所

〒675-0003 兵庫県加古川市神野町神野 1819 番地の 14

TEL:079-440-9090 E-Mail: Kenkokagaku@pref.hyogo.lg.jp

FAX:079-438-5570

URL: <https://web.pref.hyogo.lg.jp/iphs01/top01.html>



健科研